認知症情報誌 WITH ～認め合おう、知り合う、医療と介護～

第１７号

発刊日：令和２年９月
発行元：認知症疾患医療センター＆認知症相談支援センター
協同で発行しています！

コロナウイルス感染症が世界的に猛威を振るい、その報道に不安やストレスの多い日々が続いています。人との接触が困難な状況において、電話相談に注目が集まっています。そこで今号では「認知症コールセンター」をご紹介します。

●●名古屋市認知症コールセンター ●●

「名古屋市認知症の人と家族が安心して暮らせるまちづくり条例」が令和２年４月１日施行されました。認知症は誰もがなり得る身近な病気であるという認識の下、認知症の人と家族をはじめ、すべての市民が安心して暮らせるまち・なごやの実現を目指しています。

認知症に関する市の取組み「地域における相談支援の充実」の一つに名古屋市認知症コールセンターがあります。認知症の人とその家族が持つ悩みや疑問は多種多様です。当事者からの質問、介護者の悩み、家族間のトラブル、近隣住民とのトラブル等に対して、介護経験者や社会福祉士等の専門職が丁寧に対応いたします。

相談内容によっていきいき支援センターや認知症疾患医療センター等へつなぐこともありますが、対応に限界がある場合もあります。その場合は、新たな相談先を紹介するようにし、相談が途切れないようにしています。

また、認知症の人とその家族以外に住民、職場等からの相談もあります。認知症の正しい知識を持ってもらうため認知症サポーター養成講座を紹介するなど普及・啓発にもつなげています。

認知症コールセンターの要になるのは「人」です。顔が見えず、声だけの対応で相談者に寄り添う対応ができたのかどうか終了後にふり返りをしたり、相談員のミーティングで事例検討をすることもあります。また、常に新しい情報を提供できるよう、勉強会をし自己研鑽に努めています。

認知症について悩みや不安など抱えている方は、お気軽にお電話ください。匿名で相談できます。

問合先及び認知症に関する相談窓口

なごや認知症あんしんナビ **検索**

名古屋市の認知症の情報はウェブサイトをご覧ください

認知症コールセンター　認知症の症状や介護等に関する様々な相談
◆名古屋市認知症コールセンター　☎052-734-7089

認知症疾患医療センター　専門医療、鑑別診断と治療、急性期対応等に関する相談
◆名鉄病院　☎052-551-2802
◆まつかげシニアホスピタル　☎052-352-4165
◆もりやま総合心療病院　☎052-795-3560

認知症コラム　№16「 新型コロナウイルス感染症の流行について思うこと　」

名古屋市認知症相談支援センター嘱託医　黒川　豊

新型コロナの流行　困りましたね。日本では今のところ死者は少ないというもののいつまで続くことやら・・・。今、認知症の治療と介護にもしわ寄せがきています。

その 1、デイサービスに行っても良いのかな？　家族が忙しくて世話ができない場合はどうしましょう？　お休みしているデイサービスもあるし頑張ってコロナ対策をして営業している所もあります・・・が　感染については自己責任と言われてしまいます。

その 2、施設に入所している人はなかなか面会ができません。施設は病原体を持ち込まれることを恐れているのです。施設によってはタブレットによる面会や、時間を制限して別室での面会を始めていますが土日祝日は非対応のところもあり、何カ月も顔を見ることができない家族もあります。あまり会わないと家族の顔を忘れてしまう人もありますよ！　今回のコロナ騒ぎの中では家族でさえ自由に面会できず、認知症が進行してしまった方もありました。

その 3、認知症の人がコロナにかかる、これはお世話が大変です。防護服を着て近づけば怖がるでしょうしマスクは着けてくれないでしょう？もちろん大人しく入院なんかできませんし、治療と介護は大変になります。

その 4、世話をしている人がかかるのも困ります。一体だれが代わりに世話をしてくれるというのでしょう？コロナの中で預ける施設を探すのはなかなか難しいと思います。

このように、コロナの流行は認知症の治療と介護にはたくさん問題を引き起こしました。新型コロナの流行はいずれ収まるでしょうが、今後も次々と新しい感染症が流行します。これからの生活はいままでとは違い様々な変化を余儀なくされ、皆で協力し新しい生活様式を作っていかねばなりません。

最近、新しい型のインフルエンザが中国で発見されたことご存じですか？

「認知症地域支援推進員ってどんなことをする人？」

認知症地域支援推進員は、「認知症施策推進総合戦略（新オレンジプラン）」の７つの柱の一つ「認知症の容態に応じた適時・適切な医療・介護等の提供」の中に位置づけられており、基本的な役割は①医療・介護の支援ネットワーク構築、②関係機関と連携した事業の企画・調整、③相談支援・支援体制構築に関連した活動です。名古屋市では市内２９カ所のいきいき支援センター（地域包括支援センター）に１名ずつ認知症地域支援推進員を配置し、認知症の人やそのご家族が安心して暮らせるまちづくりに取り組んでいます。

名古屋市の認知症地域支援推進員の主な取り組みは、各区の認知症ケアパスの作成・普及・活用、認知症サポーター養成講座の実施、認知症サポーターの活動支援、認知症カフェの活動支援、はいかい高齢者おかえり支援事業模擬訓練の実施、社会資源の発掘、認知症本人・家族の集いの場つくりなどです。

これらの取組みの要点を一言で言うなら「つなぐ」ことです。認知症の人やその家族の声に耳を傾け、地域の人やさまざまな事業、地域の資源に関わりながら、地域のつながりの網の目を細かにしていくのです。その網の目を区のまちづくりにつないでいきます。更に 16 区の細かな網の目がつながると、認知症の人と家族をはじめ、すべての市民が安心して暮らせるまち・なごやの実現につながります。その実現を目指し認知症地域支援推進員は日々活動しています。